

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年 8月10日 更新

事務事業名		訪問指導事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	健康福祉部	課長名	安武 祐次
	施策	15	健康づくりの推進				所属課	健康づくり推進課	担当者名	木永 和博
	基本事業	44	病気の早期発見				所属班	国保年金班	(内線)	2163
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	国民健康保険法第82条		
		国保	8	1	1	10376		成果優先度評価結果		
							コスト削減優先度評価結果			
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	・看護師、栄養士の訪問による人間ドックや健診後の事後指導を行うことによる合志市国民健康保険加入者の健康の維持改善のための事業。 ・医療費適正化のため、県の準指定を受け医療費削減のため開始。 ・三位一体改革により平成17年度までで国の補助が打ち切られたため、平成18年度から単独事業として取り組んでいる。 平成20年度からは基本検診がメタボリックシンドローム測定を含めた特定健診になり、国が目標値を設定して達成できない場合のペナルティーを課している (①特定健診受診率65%、②特定保健指導の実施率45%、③メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少率10%) 今後、訪問指導事業による動機付けや積極的支援をさらに向上させ、生活習慣病による疾病の重症化を予防し、医療費抑制に繋げる。
【業務の流れ】	養生園や国保連合会からの健診結果・レセプトをもとに要指導者を抽出し、訪問指導を行う。 食生活に問題があれば食の改善や栄養指導を行う。訪問指導数値以上の方には、定期的な病院での受診をしていれば健診による結果での受診の勧奨を行う。
【主な予算費目】	08保健事業費 01保健事業費 01保健衛生普及費 1報酬 11需用費（修繕費、燃料費） 12役務費 27公課費
【意見や要望】 関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	市民から個人情報の取扱いに慎重に対応して欲しい旨の意見がある。

1 現状把握の部（DO、PLAN）

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO)		23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
健診結果通知を待って、戸別訪問による指導、電話による勧奨。(20年度から、基本健診から特定健診に変更)		平成22年度と同じ
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 訪問回数	回	公用車車検に関する費用の増
イ 訪問対象者数	人	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
特定健診、人間ドック受診者		→ ア 特定健診、人間ドック受診者数
		イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
異常があったことで改善すべき点を正しく実践してもらう。		→ ア 異常があつて改善できた人の割合(特定保健指導のすべてを終了した人)
		イ %
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠		
特定健診、人間ドック受診後の健康維持、改善に繋げる。		

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標	ア 回		444	763	600	926	800	800	800	
	イ 人		383	443	500	339	360	360	360	
② 対象指標	ア 人		2,696	2,951	3,200	2,728	4,000	5,500	5,500	
	イ									
③ 成果指標	ア %		49	56	42	47	50	50	50	
	イ									
投資 入費 量	事業 費	国庫支出金	千円							(期間限定複数年度のみ記載)
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円	4,663	6,411	6,398	6,338	6,511	6,398	
		一般財源	千円	1,613						
	人件 費	(A) 事業費計	千円	6,276	6,411	6,398	6,338	6,511	6,398	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	
		(A)のうち時間外、特数	千円	0	0	0	0	0	0	
		正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	
入費 量	人件 費	延べ業務時間	時間	60	60	60	60	60	60	0
		(B) 人件費計	千円	240	238	238	247	247	247	
	トータルコスト(A)+(B)		千円	6,516	6,649	6,636	6,585	6,758	6,645	

事務事業名	訪問指導事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
-------	--------	-----	-------	-----	----------

2 評価の部（SEE）

*原則は22年度の事後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 ①訪問回数を増やす（未受診者への訪問勧奨） ②保健指導説明での座学のみから運動も取り入れた説明への変更 ③個別受診機関の増 ④受診推進モデル地区の設定
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 国保加入者の健康意識・生活習慣病の理解を深め対象者の増加を図る。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 類似事業なし
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 費用の殆どが嘱託職員の報酬であり、削減できない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 正規職員ではなく嘱託職員で対応しており、削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 健診や人間ドックは個人から負担をしてもらっているので公正である。
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 保険者への義務づけで移行できない。 （国民健康保険法第82条：保険者は、特定健康診査等を行うものとする）

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

医療費の抑制は、早急に結果が出るというものではないが、毎年の取組みによる市民の健康への意識付けは重要であり、今後の更なる成果を上げるようやり方についても検討を加える。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								